

イメージから作られる思い込み

氷上中学校 二年 脇本 紗有

もしあなたが障害を持っている人から挨拶をされたり話しかけられたりしたとします。あなたならどう反応しますか。いや、普通に返事するでしょって思う人、逆に戸惑いで無視してしまうかもって思う人、いろいろだと思います。

少し前の私なら、実際されたらちょっと戸惑うかも、驚いたりおどおどしたりするかもって思いました。よく、頭では分かっているけど実際に関わるとなると違うように感じることはありませんか。それには自分の中の「障害を持っている人」に対するイメージが関わっているのかもしれない。

中学二年生になった最近のこと。私はトライやるウィークで、家の近くにある障害者の方も働いているお店で働くことになりました。事前に先生やお店の関係者の方から

「ここでは障害を持っている人も働いているから、そのことを知っておいてほしい。」

と伝えられました。それを聞いて私は、どう接していけば良いのかよく分からず、不安で戸惑っていました。

しばらくしてから、体験に向けてそのお店に挨拶をしに行くことになりました。そこで実際に障害者の方と会って話しました。話してみて、私は笑顔で話していたものの、どこか違和感を持ちました。他の方と話すときとは違う緊張を感じ、話す前から焦っていたようにも感じました。その瞬間、これは自分が相手に対して気を遣っているのだと思いました。話す前から体が不自由で助けがいるという私の「障害を持っている人」へのイメージから、それを相手に当てはめて会話が自分よりできないかもしれないと思い込んでいたのです。その思い込みで、相手に必要ないかもしれない気遣いをしていたのです。

しかし、相手は私の思い込みとは違い、しっかり挨拶や会話をしていました。そのことから、私はその日の気遣いが正しかったのか分からず、振り返り、考えました。思い返すと、話す前から障害に対する自分の思い込みで（助けが必要な対象）として相手を見ていたことに気づきました。そこからくる必要ないかもしれない気遣いは、本当に助けとして相手の目には映っていたのでしょうか。もし逆の立場だったら、私なら見下されていると感じると思います。「障害を持っている人」だからといって相手ができることを自分にはできないと思い込まれているからです。そうなると思い込みによる私の気遣いは、相手を傷つけているのではないかと気づきました。

そう気づいて申し訳なく思ったものの、謝るのは違うと思い、私は相手のこと

をもっと知ろうと気持ちを切り替えました。体験が始まり、自分から関わりに行こうとタイミングをうかがっていました。すると、相手の方から声をかけてもらって、まだ慣れていなかった仕事も教えてくれました。それからたくさん話し掛けてもらい、休憩時間も話すようになりました。会話は楽しくて、面白かったです。そして、たくさん相手のことを知ることにつながりました。

休憩が終わってお客さんが来ると、いつもその方はすぐに立ち上がって「こんにちは。」

と自分からお客さんに元気に挨拶をしていました。それにつられて、真似して私も挨拶をするようになりました。そこからその方の自分から関わりに行く姿勢が強く印象に残り、私も自分からその方に仕事についての質問をしに行くようになりました。

はじめは会話できるかさえ不安に思っていた相手を、しっかり知って、見ることで、「障害を持っている人」というイメージより目を向けるべきところに気付けた気がします。思い込みによって見えていた相手とは違う、本来の相手を、ここで初めて見る事ができたと思いました。そして同じくここで初めて人権を守るために大切な「相手を尊敬すること」とはこういうことなのだと分かりました。

人権を守ることは、相手を知ってこそ成り立つものだと、私は思います。だからきっと、初めは人権を守ることよりも、相手を知って見ることに集中すれば良いと思います。それには、相手への関心と、関わりに行く姿勢が大切だと思います。自分の中にある「障害を持っている人」のイメージを相手に当てはめて思い込まずに、本来の相手を見てみようと歩み寄ってみてください。そうすることで、人権を守ることへの大きな一歩になります。

人権を守ること。尊敬や思いやりを持ち合うこと。全て「イメージから作られる思い込み」で相手を見ていてはできないことです。同じ人間として相手を尊敬するために。障害などのスタートの違いを埋めてしまうために。本当の意味で助け合うために。本来の姿を尊敬し合うために。まずは自分から。私は今日も学校にいる色々な人に挨拶をしています。